

資料編

四街道市立四街道中学校

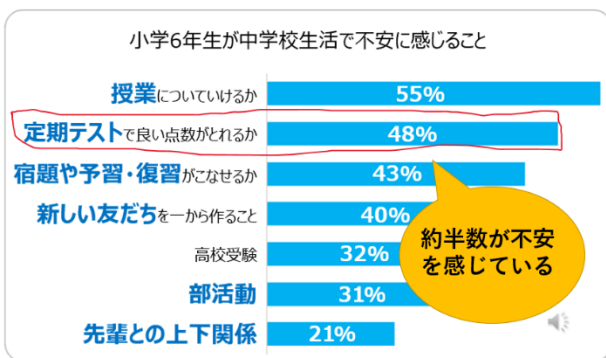
【実践1】

仮説①に関して

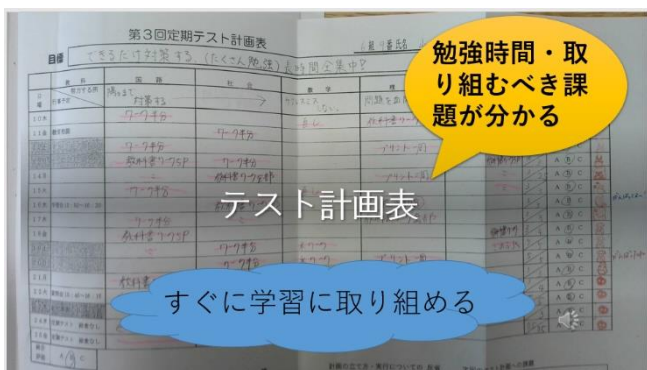
- ・教師モデルとして提示した資料。



- ・教師モデルとして具体的なデータやクイズを紹介したところ、自分の発表でもそれらを取り入れる生徒が多数出てきた。



- ・タブレットを活用し、部活動や校舎の様子をカメラで撮影し、発表の資料として使う生徒もいた。



- ・タブレットの翻訳機能を使うことで、外国籍の生徒もスピーチを行うことが出来た。



仮説②に関して

- ・評価カードを用いて「話す力」「聞く力」の相互評価ができると考えた。
- ・評価の項目を提示することで、「ICTの活用能力」が評価につながらないようにした。
- ・他者から聞いた発表内容を一言でまとめる作業をすることで、意識して聞くことができた。

スピーチ評価票

組 番 氏名 _____

担当: _____

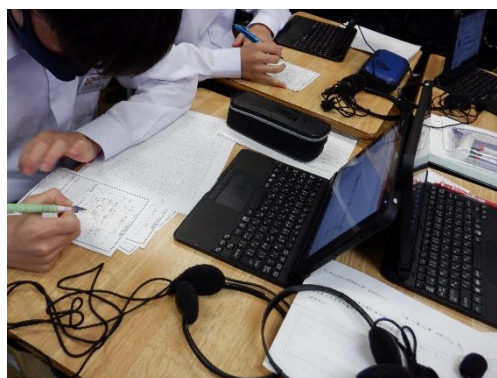
NO.	項目	評価
1.	・聞き手を意識して発表しているか。	1-2-3-4-5.
2.	・構成がしっかりとしているか(はじめ・中・終わり)。	1-2-3-4-5.
3.	・資料は、視覚的にわかりやすいものになっているか。	1-2-3-4-5.
4.	・一番伝えたいことが一言でよくまとまっているか。	1-2-3-4-5.

総合評価 A:とてもよい B:よい C:要改善
<アドバイス>.

<友達のスピーチ(四中の魅力)を一言でまとめると…>.

友達の考える四中の魅力は.

なぜなら.



- ・ 四人一組の少人数グループを作ること、話し手も聞き手も相手意識をもってスピーチができるように工夫した。
- ・ 同時に話をするので、マイクで集音性の問題をカバーした。
- ・ お互いに動画を取り合い、発表を見返させることで、客観的に自分の発表を分析することができた。



実践例（3）

第3学年5組 国語科学習指導案

指導者 佐藤 侑紀

1 単元名 構成を考えて主張をまとめる

（主な教材：「構成を考えて主張をまとめる」 教育出版）

2 単元目標

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

〔知識及び技能〕（2）イ

- ・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝えあう内容を検討することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

SDGsのテーマに関するスピーチとその評価を行う。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア）

4 単元について

（1）単元観

本単元は学習指導要領第3学年の以下の指導事項に位置づけられている。

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。〔知識及び技能〕（3）イ・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝えあう内容を検討すること。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

学習指導要領「〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くことに「話題の設定」「情報の収集」「内容の検討」が位置づけられている。小学校5、6年次段階では、日常生活から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する授業を行ってきた。中学校1年次では、ビブリオバトルを通して、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する授業を行った。中学校2年次には、「夢を跳ぶ」の教材文を読んだ後、社会生活の中で障害者に対する支援にどのようなものがあるのかを調べ、異なる立場や考え方を想定しながら伝え合う活動を行った。

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、本校の指導の重点でもあるSDGsに関するテーマを題材として、スピーチを行うことを言語活動として設定した。近年、社会的にSDGsという言葉が聞かれるようになったが、具体的な項目や活動といったものについて深く考える機会は少ない。

「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す」という国際目標ですら、あまり身近に感じていない生徒も少なくないであろう。そこで、「SDGsについて調べた内容を発表する」という言語活動を取り入れることで、社会に目を向けるきっかけになると期待できる。また、発表資料の作成の際、インターネット等を用いて調べ学習を行わせることで、情報の精査の必要性や多様な考え方があることに気づかせることができる。そして、社会的な難しい内容のものを、いかにわか

りやすく他者に伝えるかを考える必要性が出てくるので、単元の目標「〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア」を達成するのに適した言語活動だと言える。

(2) 生徒の実態

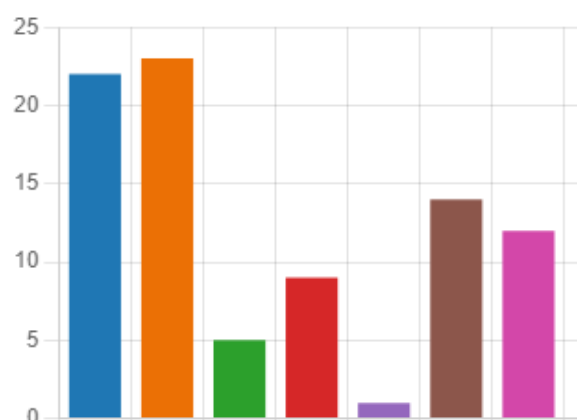
本学級は男子 20 名、女子 16 名、計 36 名からなる学級である。

本学級の実態調査を行ったところ、次のような結果が出た。以下は、アンケートの内容とその回答結果である。

1. あなたはスピーチをする際に、どのようなことに気をつけていますか。(上位 3 つを選んでください。)

詳細

● 声の大きさ	22
● 話す速さ	23
● 大事な部分を強調すること	5
● 順序良く話すこと	9
● 問いかけを入れること	1
● わかりやすい資料を作成すること	14
● 相手の方を見ながら話すこと	12
● その他	0



スピーチの際に気をつけていることの上位 3 つを選ばせたところ、「話す速さ」が 23 票、「声の大きさ」が 22 票、「わかりやすい資料を作成すること」が 14 票、「相手の方を見ながら話すこと」が 12 票という結果になった。スピーチの基本である声の大きさ、速度、目線といったことは意識できていると言える。また、昨年度パワーポイントを用いたスピーチを行った際に、相手に伝わりやすい資料作りを指導したことが身につけていることがわかる。

一方、「順序良く話す」は 9 票、「問いかけを入れること」は 1 票と、スピーチの構成を重視している生徒が少ないことがわかる。実際、昨年度パワーポイントを用いたスピーチを行った際にも、スライド上に書いてあることをただ追って読む生徒が多く、問いかけを冒頭にもってきたり、自分の意見を最初や最後にまとめて発表したりする姿はあまり見られなかった。

このように、本学級の生徒は、スピーチを補助する資料作りの重要性に気づいている生徒が多いものの、その構成について意識して作ろうとする生徒があまり多くないことがわかる。

(3) 指導観

単元観と生徒の実態を踏まえ、複雑なテーマを他者に伝える際に、どのようにまとめるとより伝わりやすいのかを意識させてスピーチ原稿を作成させたい。

また、本校の研究主題に基づき、国語科では「主体的に考え的確に表現する力を身につけ、日常生活に生かす指導の工夫」を努力点としている。また、仮説に対して本単元では以下のような工夫改善を行う。

仮説①「生徒が意欲的に学びに向かえるような指導方法の工夫」として、スピーチを行う際

は、モデルを示して、見通しを持たせたいうで活動に臨む。また、スピーチを行う際は、タブレット等を用いて図表を用いることを条件とし、聞き手が興味をもてるような発表の仕方の指導を行う。

仮説②「互いの意見を交流し、多面的・多角的に考えられるような指導の工夫」においては、少人数グループでの交流を行う。少人数グループで行うことにより、より相手意識をもつことができるようになり、聞き手の反応に留意しながら発表の工夫を行うことができる。また、聞き手側には質問係と評価係を設定し、スピーチを能動的に聞く手立てを講じる。その活動をとおして、話し手の質問を想定して発表をする力を養う。また聞き手の評価をもとに、自分の意図したとおりの内容が聞き手に伝わっているかの振り返りの効果も期待できる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝えあう内容を検討している。(A(1)ア)	①進んで、多様な考えを想定しながら材料を整理し、自分の考えが分かりやすくなるように表現を工夫して、スピーチをしようとしている。

6 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一 次	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のモデルを示して、スピーチの様子をイメージさせる。 ・SDGsの17の国際項目の中から9項目を選び、4人班ごとにその内容を調べ、スピーチ原稿を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等で調べた内容をそのまま引用するのではなく、わかりやすい言葉に代えさせる。 ・SDGsの達成のための具体的活動と、質問を想定した発表資料を作成させる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・プレゼンテーション用資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを活用し、参考となる資料をまとめている様子
第二 次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・4人班の中で発表用原稿を完成させる。 ・スピーチの練習をし、他者に伝わりやすい内容かを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者が聞いたときに伝わりづらい表現がないかに着目させる。 ・説明の際に必要な資料が十分そろっているかを最終確認させる。 	<p>[知識・技能①] スピーチ用資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際項目達成のための具体的な活動をスライドにまとめている記述

第 三 次	4	<ul style="list-style-type: none"> 別の班のメンバーと小グループを組み、自分の調べたテーマのスピーチを行う。 聞き手側には質問者と評価者を設け、質問者は必ず質問を一つする。評価者は評価カードに記入を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の際は、資料を活用するとともに、どのような質問が来るかを想定しながら発表を行わせる。 質問者は、発表を聞いて疑問に思ったことを問いかけるよう指導する。 評価者はスピーチの仕方や資料の工夫、すばらしかった点を評価する。 	<p>[思考・判断・表現①]</p> <p>評価カード</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手による観点の評価及び工夫されていた点の記述
	本時			

7 本時の指導

(1) 評価規準

- 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝えあう内容を検討している。 [思考・判断・表現]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>1 本時の学習と学習目標を知る。</p> <p>学習課題 調べた内容をわかりやすく伝えよう。</p> <p>ワークシートに一番伝えたいことをまとめて記入する。</p> <p>・分かりやすいスピーチを作るためには、構成が大切であることを確認する。【見いだす】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べた内容に対してもった自分の意見を一言でまとめて記入するよう指導する。 	ワークシート
5	<p>2 スピーチ原稿の最終確認をする。</p> <p>・スピーチの最終練習を行い、どのように話したら分かりやすく伝わるのかを考える。【自分で取り組む】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表のポイントを示し、練習に取り入れられるよう指導する。 	<p>パワーポイント</p> <p>資料</p>

10	<p>3 スピーチの流れについて説明する。</p> <p>スピーチの流れ</p> <p>①スピーチは3分。時間を使い切るほど良い。</p> <p>②話す時は資料を活用し、視覚的にわかりやすい発表を行う。</p> <p>③評価者（1～2名）は各項目の評価を5段階で行い、特に優れている点を記述する。</p> <p>④役割を変えて、①～③を繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズにスピーチを進められるよう、資料を使って説明する。 ・発表する4人班を意図的に組み、調べた内容に対する予備知識がない生徒どうしで発表をさせる。 ・発表の際に気を付けること、評価者として気を付けることの指導を十分に行う。 	
20	<p>4 スピーチを行う。</p> <p>流れに沿って、一人2～3分程度のスピーチを行い、質問や評価記入の時間を2分間取る。</p> <p>班の中で発表についての意見を交換し、自分の発表を見直す。 【広げ深める】</p>	<p>○観察 [思考・判断・表現] 《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「なか」「おわり」の順序を意識させる。 ・「はじめ」では問いかけをして引き付けるとよいことを助言する。 ・「なか」では、視覚的な資料を提示し、説得力をもたせるとよいことを助言する。 <p>「終わり」では、自分の伝えたいことを一言でまとめるとよいことを助言する。</p>	ワークシート
10	<p>5 本時を振り返る</p> <p>ワークシートに評価者からもらった評価カードを貼り、自分の伝えなかったことが伝わったかの反省を記入する。</p> <p>評価カードを参考に、自分の発表が伝わりやすいものだったのかを振り返る。 【まとめあげる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に書いた自分の伝えたいことと、評価者がまとめた一言が一致しているかの確認をさせることで、自分の発表の仕方が伝わったのかを振り返らせる。 <p>○ワークシート [思考・判断・表現] 《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価シートを参考に、なぜ自分のスピーチの反省を行わせる。 	

8 板書計画

	スピーチの流れを揭示	<p style="text-align: right;">構成を考えて主張をまとめる</p> <p style="text-align: center;">調べた内容をわかりやすく伝えよう。</p>
--	------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

9 生徒の変容

(1) 研究実践前の生徒Cの様子

生徒Cは、構成を考えて主張をまとめることが苦手で、文章を書こうとする意識はあるものの、支離滅裂になってしまう傾向にあった。以下は、本研究を実践する前行った定期テストにて、生徒Cが実際に書いた作文である。

設問：本文を読んで筆者の言いたかったことを六十四字～八十字以内にまとめる問題



「創造をよくして自分だけの自由時間を自分なりに見つけて出して遊んだりしながらいきっていくつまり自分の世界を大切にすることがとても大事だと言える。」と記述してある。

定期テストで制限時間付きであったものの、句読点が抜けているなど、読み手を意識して書いていないことがわかる。また、「つまり」という接続詞を使ってはいるが、文章の構成を意識しておらず、筆者の主張をまとめられていない状態である。

(2) 研究実践の生徒 C の様子

以下は、生徒 C の主張をまとめたものと、発表を受けての他の生徒の評価表である。

本授業における生徒 C が伝えたいことを一言でまとめたもの。
「この世界中のどこかでは、キレイな水を利用できていない人がいる」とまとめている。

NO	項目	評価
1	・原稿を見ずに、自分の言葉で話しているか	1-2-3-4-5
2	・構成がしっかりとしているか	1-2-3-4-5

同じグループの生徒が、生徒 C の発表内容を聞いて伝えたかったことを一言でまとめたもの。「世界中で安全なトイレを使用できない人が多くいるということ。」書いてあり、生徒 C の主張が伝わっていないことがわかる。

総合評価 ○ A: 大きい B: よい C: 要改善

<友達のスピーチを一言でまとめると…>

世界中で安全なトイレを使用
できない人が多くいるということ。

○友達からの評価表を貼ろう。

○自分の伝えたいことを一言でまとめて書いて。

この世界中のどこかではキレイな水を利用できていない人がいる

以上のワークシートから、生徒 C の伝えたかったことが、他の生徒にはうまく伝わっていないことがわかる。この活動を終えたのち、自分自身の発表を振り返らせたところ、生徒 C に変化が見られた。

以下は、生徒 C のスピーチの振り返りである。

評価表を見て、自分のスピーチをうまく伝えられたかどうか振り返ろう。

最後の自分の考えを強く言いすぎてしまい、最初に言った伝えたいことをわかってもらえなかことを改善したい

最初に言った伝えたいことをあかってもう一度違う言葉でまとめておきたい

もっと聞き手に伝わるような声のスピードなどを調整したい

「最後の自分の考えを強く言いすぎてしまい、最初に言った伝えたいことをわかってもらえなかことを改善したい」との記述。

実際の指導の中では、「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識してスピーチを行うよう指導していたが、生徒 C は「はじめ」の部分で自分の言いたいことを伝えていた。しかし、「終わり」の部分でも自分の言いたいことを再度違う言葉でまとめており、他の生徒には「終わり」の部分で述べていた内容が伝わってしまった。振り返りを通して、生徒 C が自身の文章の構成の仕方の改善点について、着目できるようになった。

以上を通して、「一言でまとめる」という実践と、「評価カード」の実践は、文章の構成を意識して表現する活動に有効であることがわかった。

(3) 研究実践後の生徒の様子

本授業を実践後、定期テストにおいて文章の構成を考えて表現できるかを問う問題を設けた。以下は、生徒 C の解答である。

設問：二つの新聞を比べて、「どちらがより工夫されていると思うか」という意見を六十字～八十字以内で問題



「私はAの新聞が良かったです。なぜなら新しい日本人像を大阪選手は示していると工夫して読み手に効果的な情報を送っているからです。」という記述。

句読点の使い方や誤字は目立つものの、初めに主張をもってきて、その理由をあとから述べるという構成を意識して記述している姿が見られた。これは、本実践を通して、構成を意識して文章をつくるという姿勢が身についたためだと考えられる。